

World News

ロケット関連ニュース

1. Ariespace 社、03 年度の業績を発表

Ariespace 株主の総会が 4 月 30 日-パリで開催され、2003 の財務諸表が承認された。2003 による売上げ実績は 5 億 5900 万ユーロで、純利益は 920 万ユーロであった。

継続して受注が難しい商業市場で、極めて過酷な競合条件であったにも拘らず、諸指標は以下の結果となった：

欧州宇宙プログラムに対する保証付き利用権 (EAGS) と共に Ariane 5 ECA に対する打上計画への ESA メンバーによる欧州企業の再評価によって、打上げ事業サポートを実現できたこと；

市場価格に対応できるように Ariane 5 の製造原価の再調整をしたこと；

欧州打上機ファミリ - Ariane、Soyuz、Vega - 及び Ariane と世界の打上げ企業 (Boeing Launch Service と三菱重工) との相互打上サービスのアライアンスは Ariane の顧客に対して打上サービスのフレキシビリティを増大させたこと；

Ariane では会社内部の再編を進めており、現在全体の組織を販売、プログラム、投資の 3 つの部門に再編、各部門にはそれぞれ 250 名の従業員を配属した。この再編により欧州宇宙機構の唯一の打上げサービス契約者として最適なサービスが可能となったこと；

2003 年、Ariespace は公開入札競争のなかで、17 の打上サービス契約の 8 契約を受注、世界の主要な打上げサービスプロバイダーである事を証明したこと。

現在の Ariespace のバックログは、33 機の衛星で 30 億ユーロになる。

- Ariane 2004.04.30 プレスリリース 記事 -

2. Sea Launch、DIRECTV 7S 衛星打上成功

Sea launch 社は、5 月 4 日、同社の海上打上げプラットフォーム「オデッセイ」から DIRECTV 7S 放送衛星の打上げに成功した。衛星打上げからまもなく、衛星が予定の軌道に乗ったと発表した。



DIRECTV 7S 打上げ Sea Launch 提供
オデッセイプラットフォームから午前 5 時 42 分太平洋時間 (12 時 42 分 GMT) に、Sea Launch Zenit-3SL ロケットは打上げられ、正確に予定静止トランスファー軌道に投入され、現在迄のところすべてのシステムはフライト中、正常に機能している。発表によると、ロケット上段部のブロック DM-SL は、5483kg の DIRECTV 7S 衛星を最終の静止軌道の西経 119 度に配

置する為の静止トランスフェー軌道に正確に衛星を投入した。ドイツのWeilheim 地上追跡局が衛星分離後まもなく、衛星からの信号を取得し、計画された軌道に乗っている事を確認した。DIRECTV 7S は DIRECTV 衛星群の 2 番目のスポットビーム衛星で、106 のサービス範囲に、新たに 41 サービス地域にチャンネルを配信する能力を DIRECTV に提供するために、スポットビームテクノロジーを使用している。衛星はパロアルトのスペースシステムズロラル社で製造された。Sea Launch での打上げは、DIRECTV として 2 回目で、スペースシステムズロラルとしては 3 回目となる。最初の DIRECTV 打上げは、1999 年 10 月 9 日に DIRECTV 1R を、またスペースシステムズロラル最も最近の打上げは、2004 年 1 月 10 日にテルスター-14/Estrela do Sul 1 である。

- Sea Launch 2004.5. 4 プレスリリース 記事 -

衛星関連ニュース

1. スーパーバード 6 号機打上げ成功

宇宙通信株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:安念 彌行)の通信衛星スーパーバード6号機は、日本時間4月16日(金)午前9時45分(米国東部時間4月15日午後8時45分)米国フロリダ州ケープカナベラル空軍基地から、インターナショナル・ローンチ・サービス社のアトラス IIAS ロケットにより打上げられ、日本時間午前10時15分にロケットからの分離に成功致した。今後は、アポジモーター噴射、ペリジモーター噴射等の手順を経て高度約36,000kmの静止軌道へ投入し、アンテナ、太陽電池パネルの展開を実施し、最終姿勢及び軌道の微調整を行います。その後、通信機器等の軌道上試験を経て、スーパーバードA2号機として、7月中旬

からのサービス提供開始を予定している。



スーパーバードA2号機 SCC 社提供

スーパーバードA2号機主要諸元

軌道位置: 東経 158 度

衛星バス: Boeing 601

ペイロード:

周波数帯 Ku-Band、Ka-Band

中継器: Ku 帯 36MHzx23chx85W

Ka 帯 100MHzx4chx70W

Ka バンドは可動ビームを搭載

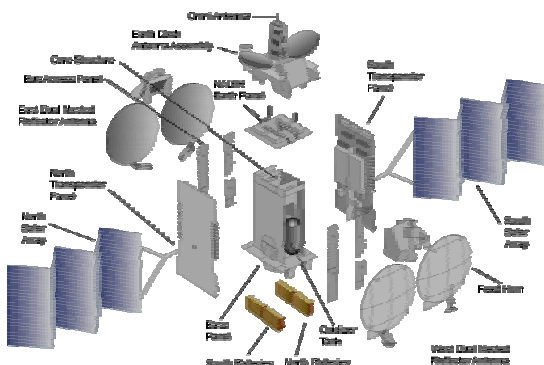


Ka バンド可動ビームのサービス範囲 -

-SCC 社 2004.4.16 プレスリリース 記事-

2. ロッキード社、JCSAT-10 衛星を受注

ロッキード社(LMCSS)は2006年に日本及びアジア地域への通信サービスを予定しているJSAT社の次期通信衛星JCSAT-10を4月20日に受注契約をした。受注額については公表されなかった。JCSAT-10はハイブリッド衛星であり、高出力Kuバンドトランスポンダ、中出力Cバンドトランスポンダを搭載し、東経128度配置される予定である。衛星は、A2100AXバスでロッキードマーティンコマーシャルスペースシステムズ(LMCSS)社の、ペンシルベニア州のニュータウンで製造される。LMCSSのTed Gavrilis社長は、「私達は、JSATがJCSAT-9に続けて2番目の衛星JCSAT-10をLMCSSに授与された事を光栄に思っています。この衛星受注は、この業界での今年度最初の衛星契約となります」と言いました。LMCSSは現在、JCSAT-9を製造中で、衛星は同じくA2100AXバスである。打上げは2005年に予定されており、アジアと日本にサービスを提供する。昨年、LMCSSは5機のA2100商用衛星を世界中から受注した。



A2100の構造 LMCSS社提供

-LMCSS社 2004.4.20 プレスリリース 記事-

3. モバイル放送衛星(MBSAT)軌道上引渡し完了、7月から放送開始

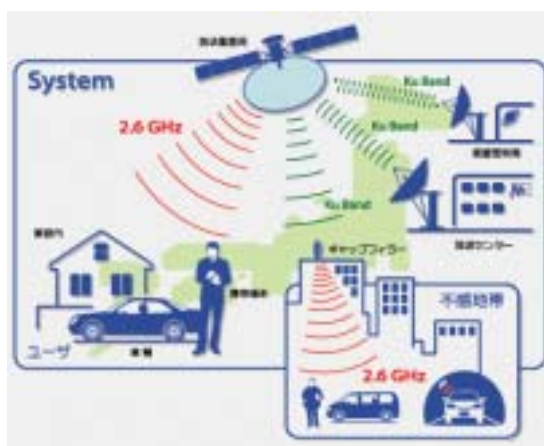
モバイル放送株式会社(本社東京都中央区 社長:溝口哲也)は、2004年7月から日本全国で、屋外や移動中に携帯端末等で楽しめる多チャンネルの映像・音声放送およびデータ情報サービス“モバイル放送”を提供する予定である。サービスに使う専用衛星(MBSAT)の軌道上試験と試験審査会が無事完了し、4月27日、正式に衛星メーカー、スペースシステムズ・ロラール(SS/L社)からモバイル放送に衛星が引き渡された。この衛星は3月13日に米国ケープカナベラルから打上げられ、SS/L社による軌道上評価試験が続けられていた。この引渡しを受け、予定通り4月末より全国に試験電波を出し、各種の技術的な検証などを行った後、7月より全国一斉にサービスを開始する予定です。



衛星引渡しにサインをする両社代表

モバイル放送について

モバイル放送は、自動車や屋外の移動中に楽しめる多チャンネルの衛星放送サービスで、サービス内容は、ジャンル別の音楽専用番組など音声系の番組、音楽やニュース、スポーツなどの映像番組、そのほかデータサービス。衛星放送のため日本全国どこでも同じ番組を高音質・高画質で楽しめるのが特徴。1998年5月に設立され、2004年3月末現在で合計80社が出資、2004年7月の放送サービス開始を目指します。



-MBCO社 2004.4.28 プレリリース記事-

4. Amazonas衛星 7月打上げで準備中

AstriumはAmazonas衛星の製造、組み立て、衛星全体の宇宙環境試験を完了した。

最終のEnd to End RF試験が実施中で5月末までに完了の予定である。

その後、衛星は6月中旬にカザフスタンのバイコヌール基地に輸送され、7月にProton M Breeze M Launchで打上げられる予定である。

衛星は51本のトランスポンダを搭載し、ブラジル、南北アメリカ、および環大西洋国

際通信回線への通信サービスを提供する。

Amazonasラテンアメリカ衛星は、Hispasat社の5番目の衛星となる。



Amazonas衛星 EADS Astrium提供

衛星は、アマゾン盆地上の西経61度の静止軌道から運用され、Kuバンド-32本及びCバンド-19本のトランスポンダを用いて固定通信及び放送サービスを予定している。衛星寿命は15年である。

衛星は打上げ重量4.5トンで太陽電池パドルは35m長で、展開時には寿命末期で9.5kW以上の発電容量を持っている。

EADS Astrium社が、主契約者で衛星の設計から製造及びペイロードとプラットフォームを供給する。EADS CASAはこのプログラムについてのEADS Astriumの主要なパートナーである。また、他のスペインの会社が重要な部品を供給する。Amazonasは、ユーロ星通信衛星ファミリーのE3000バージョンである。

-EADS Astrium社 2004.4.23 プレリリース記事-